

国土交通省における 火山防災対策に係る取組について

**平成25年3月
国土交通省砂防部**

火山噴火緊急減災対策砂防計画の策定・推進

火山噴火に伴う土砂災害による被害を軽減するため、国及び都道府県の砂防部局において、火山毎にハード・ソフト対策からなる火山噴火緊急減災対策砂防計画の策定を推進。

現状

- ・低い施設整備率
- ・火山活動は予測が困難、想定外の現象も発生
例：三宅島(H12)の山頂噴火及び低温火砕流

緊急時に**限られた条件の下で**何が**できるか**、具体的に検討

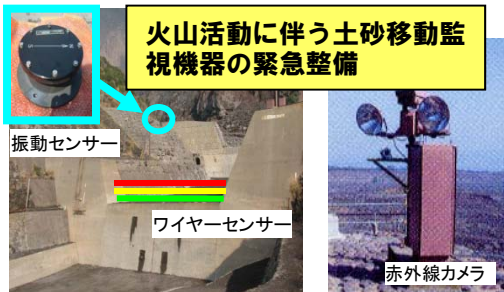
火山噴火緊急減災対策砂防計画策定
(緊急時への備え)

- ・平常時からの準備事項
- ・緊急時に実施する対策

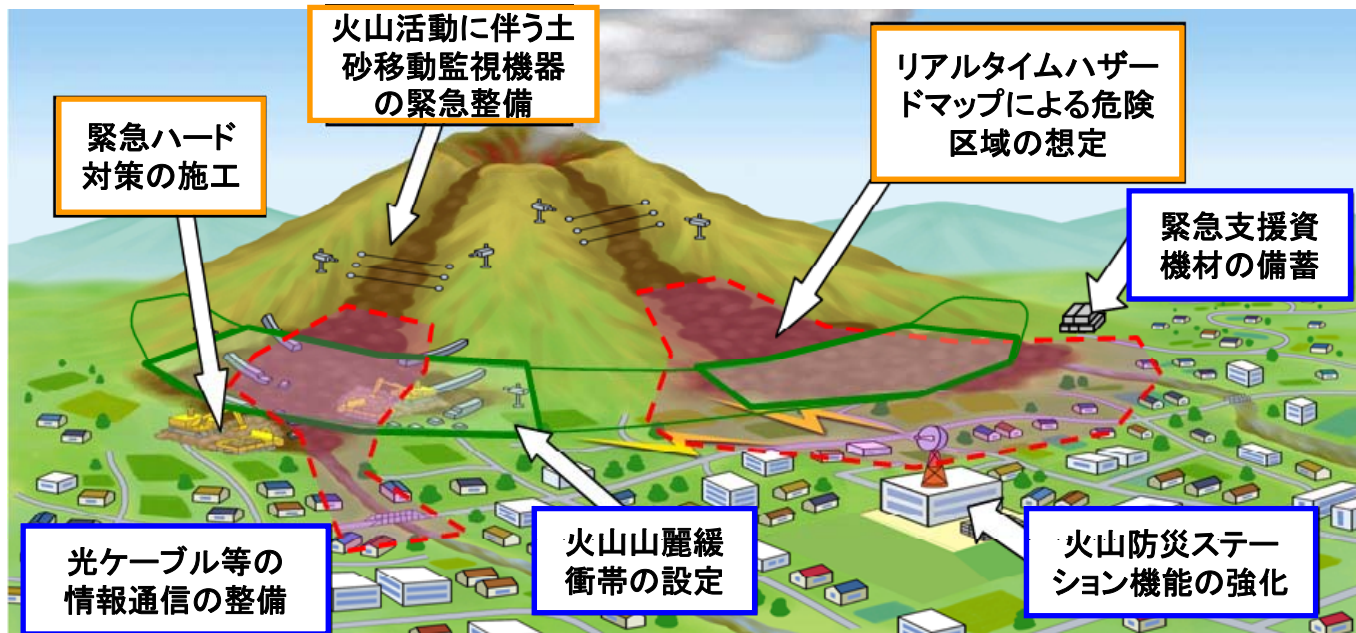
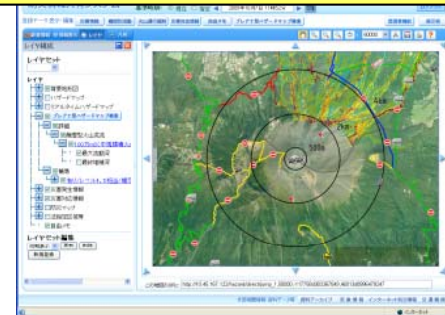
緊急ハード対策



火山活動に伴う土砂移動監視機器の緊急整備



リアルタイムハザードマップの整備



計画策定対象火山(29火山):

雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩木山、秋田焼山、秋田駒ヶ岳、岩手山、鳥海山、蔵王山、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、浅間山、草津白根山、伊豆大島、三宅島、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、鶴見岳・伽藍岳、九重山、雲仙岳、阿蘇山、霧島山、桜島

□ 平常時に実施する噴火対策

□ 噴火時に実施する緊急対策

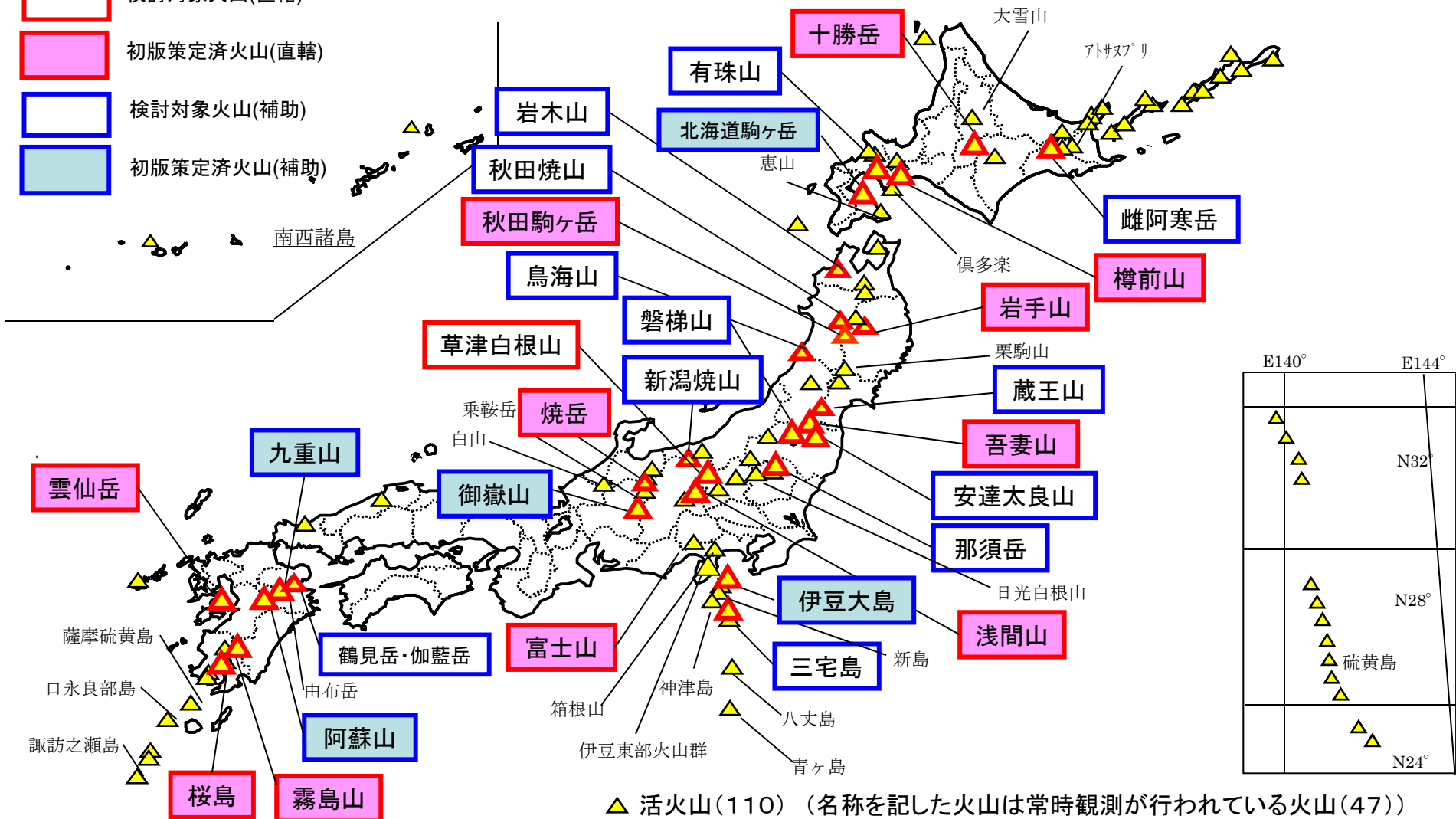
火山噴火緊急減災対策砂防計画の策定状況

検討対象火山(直轄)

初版策定済火山(直轄)

検討対象火山(補助)

初版策定済火山(補助)



平成25年3月現在、対象29火山のうち16火山で初版策定

自治体、関係機関等と連携した防災訓練の実施・参加



焼岳火山噴火対策協議会による焼岳火山防災訓練の様子(2013年2月12日)



2 浅間山火山防災対策連絡会議・利根川水系砂防事務所による浅間山噴火を想定したロールプレイング方式防災訓練の様子(2013年2月1日)

自治体、関係機関と連携した防災訓練を実施・参加し、噴火時等の防災対応の確認や、土砂災害防止法に基づく緊急調査時の情報の入手方法、土砂災害対策等について参加機関と情報交換を行った。

火山噴火に起因した土砂災害予想区域図作成の手引き(案)について

1. 見直し理由

平成23年5月に改正土砂災害防止法が施行され、火山噴火に伴う大規模な土石流のおそれのある場合には国が緊急調査に着手することとなったことから、リアルタイム火山砂防ハザードマップの考え方等を整理し、「火山噴火に起因した土砂災害予想区域図作成の手引き」を策定した。

2. 手引きの内容

- ・本手引きで取り扱う火山噴火に起因した土砂災害は、火山泥流、溶岩流、火砕流及び降灰後の土石流とした。
- ・予想区域図は、砂防工事の計画策定や評価に利用するだけでなく、火山防災協議会を通じて情報共有され、避難計画の検討への活用が期待されることについて記載した。
- ・緊急時の予想区域図の作成に関する章を追加し、リアルタイム火山砂防ハザードマップの考え方を記載した。

火山砂防フォーラム2012の開催について

火山地域の自治体が主体となって、砂防を含む火山防災の啓発と安全で活力のある地域づくりについて理解を深めることを目的とし毎年各地で実施。

日時：平成24年10月18日(木)～19日(金)
場所：秋田県仙北市
主催：火山砂防フォーラム委員会
(全国の活火山を有する市町村により構成)
参加者：約700名(内、地域住民約500名)



直近の秋田駒ヶ岳の噴火(1970年)



東日本大震災発生以降、全国的に大地震後の大規模噴火の高まりが叫ばれている
▶地域の特性を踏まえた防災教育の情報共有、火山噴火対策の推進・持続の意見交換が必要

開催テーマ：火山を知り、火山と共に生きる～災害経験の少ない活火山における火山噴火対策～

小学生による研究発表

「ふるさとの山 私たちの秋田駒ヶ岳」

秋田駒ヶ岳の麓に暮らす小学生が、活火山の特徴や恵みと災害について関係機関の支援のもと学習を展開。

火山との共生という観点から、楽しみながら火山災害について学ぶため、小学生自らが考えた火山のピクトグラム
の提案や、噴火による避難の際に適した服装の発表(ファッションショー形式)が行われた。



ピクトグラム



避難に適した服装発表

パネルディスカッション

「これからの秋田駒ヶ岳の火山防災対策」

今後の火山活動の活発化に備え、地域に暮らす人々と共に、今後の持続可能な取組のあり方について意見交換を実施。

地域の特徴を踏まえた“ふるさと学習”を継続することによる住民の自発的な防災意識の維持・向上を目的とした行政の支援・協力のあり方と重要性を再確認した。



・火山噴火に備え、**持続的な防災教育や住民と行政の連携強化の重要性を再認識**すると共に、火山噴火に対する記憶と危機意識の伝承など、**火山噴火の経験が少ない地域における**対策の方向性を確認した。